

1. 調査結果概要表

作成日 平成19年12月17日

【評価実施概要】

事業所番号	3691700011
法人名	社会福祉法人 博友会
事業所名	グループホーム ふるさと
所在地	徳島県吉野川市山川町祇園51番地2 (電話) 0883-42-7180

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成19年 12月 3日

【情報提供票より】(平成19年11月16日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 4月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	13 人 常勤 11人, 非常勤 2人, 常勤換算 12人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造 耐火構造 造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	32,550 円	その他の経費(月額)	電気代3,600円, ガス代1,800円, 水道代600円	
敷 金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 200,000円 無	有りの場合 償却の有無		有/無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		800 円	

(4) 利用者の概要(11月16日現在)

利用者人数	17 名	男性	5 名	女性	12 名
要介護1	4 名	要介護2	2 名		
要介護3	9 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	75 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・三木リハビリテーション病院
---------	----------------

徳島県 グループホームふるさと 1

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は小高い丘の中腹に立地し、もともとあった建物を改修している。内装は、特産の天然杉にこだわり木材の持つぬくもりや肌触り、香りを大切にしている。共用の生活空間には利用者によって飾られた生花や手芸品が日本家屋に上手くなじんでいる。周辺に介護支援センター、福祉施設、医療機関等があり連携を密にしている。自治会加入で地域の情報を得ながら行事への参加や招待等により地域との交流を深めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価での主な改善課題である「利用者の生活リズムに合わせた毎食後の確実な口腔ケアの実現」に向けて検討し、改善できている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価の意義を十分理解し、職員全員での評価を作成し、具体的な取り組みをされている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、2か月に1回開催されている。地域包括支援センター職員、地域代表、管理者及び事業所関係者で構成されている。討議内容では、家族アンケートの集計結果等を用いて、サービスの質の向上に努めている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の来訪時には意見を聞いたり、運営推進会議で活発な意見や要望を出してもらい、ミーティングで話し合い運営に反映されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 小学校の運動会、秋祭り、地域の清掃活動に参加し交流に努めている。地域の自治会にも加入し情報を得る中で地域での理解も深まってきている。

社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の人たちとのなじみの関係作りができており、地域密着型サービスとしての事業所独自の理念が作成されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティングで理念を共有し理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学校の運動会や地域の清掃活動に参加している。自治会にも加入し地元の人々と交流する機会を持っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前年度の評価項目の課題を出し合い、職員間で検討し改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2か月に1回開催されている。地域包括支援センター職員、地域代表、管理者及び事業所関係者で構成されている。討議内容では、家族アンケートの集計結果等を用いて、検討されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者を訪ねる機会は多くあり、市町村と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に状況を報告したり、ご意見を聴いたりしている。また、便りでホームでの暮らしや健康状態を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時には意見を聞いたり、運営推進会議で活発な意見や要望を出してもらい、運営に意見が反映されるように取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者に影響を与えないよう最小限の異動を心掛けている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人で年間スケジュールが作成され、職員が順次研修に参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームと合同で勉強会を開催したり、情報交換をしたりと連携が取れている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に家族、利用者と面会し家庭環境や生活状況を把握し、入居後の関係作りや環境作りに配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者のペースで暮らせるよう配慮し、喜怒哀楽を共にし、利用者から教えてもらう等、支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族の意向を聞き、一人ひとりの思いや暮らし方を本人本位に検討している。また、利用者の生活史作りに取り組まれている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護担当者を決め、サービス計画書作成時には、利用者や家族の意見を取り入れ立案している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	長期、短期の見直しは適切に行い、現状に即した見直しもできている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院への入院者のお見舞いに行ったり、家族と相談のうえ、受診時の付き添いを行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望する医療機関に受診できるように支援している。かかりつけ医とは常に連携を取り合っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	これまでに重度化した場合や終末期ケアの事例がなく、方針について検討されていない。	○	重度化した場合や終末期になってから対応するのではなく、事前に本人、家族、かかりつけ医等と方針について意識統一をはかることを検討されたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	書類の取り扱いや利用者に対する言葉かけや対応も尊厳を損なわない気遣いがされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、ゆっくりと利用者へ添って支援されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりにあった役割で調理の下ごしらえをする人、盛りつけや下膳等、能力に合った参加の方法で、職員と利用者が一緒に食事を楽しむことができるよう取り組まれている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日を特定せず、利用者の希望やタイミングに合わせて支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日記を付けられる人には毎日の記録、手芸の得意な方にはホールの飾り付けなどをしてもらっている。また、忘年会や新年会の計画なども利用者に行ってもらっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの立地条件は良く、常に散歩が可能である。また、敷地内に森や神社も有しているため利用者の希望に添って外出している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中に鍵をかけないケアに取り組み実施している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人が主体で年2回の避難訓練が行われている。夜間、昼間の連絡マニュアルが整備されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全員の食事、水分摂取量を記録し、それをもとに併設施設の管理栄養士から支援方法についての指導を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は、腰壁やドア、床に天然杉を使用しており、全体的に落ち着ける空間作りがされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスや好みの家具が持ち込まれ、利用者が心地よく過ごせる居室作りが工夫されている。		